

キラットさん



大館商業高校 2年
 なおき こうじ
 長崎 直樹さん 幸司さん



「二人の練習風景を見てると面白いですよ。双子とは言っても、性格がはっきりと出ているんです」と、彼らの所属する男子卓球部を指導なさっている村上先生。ということで、今回のキラットさんは双子の登場です。写真左が兄の直樹さん、右が弟の幸司さんです。お互いの性格は、直樹「幸司は怒りやすい。それによく寝る」。対して、幸司「お前はうるさい」。

しかし、それぞれ自分の性格はというと、声をそろえて「やさしい」とのこと。一体どちらが真を言い当てているのでしょうか。今は同じ卓球部に所属していますが、始めたのは直樹さんは高校から、幸司さんは中学からだそうです。直樹さんは中学時代、野球部に所属し、ピッチャーをしていましたが、弟の幸司さんの活躍ぶりを見て自分も卓球をやりたいなっただけです。今は、まだ弟の幸司さんには技術的に及ばないところもあるようですが、持ち前の明るさといつも前向きな姿勢は、良い意味でのムードメーカーとなつてチーム全体を引っ張っています。一方、兄を卓球へと駆り立たせた幸司さんは、中学校都市新人戦で個人優勝したすばらしい実績の持ち主です。もちろんクラブ内では幸司さんがトップの実力です。実はサッカーをやったかったのですが、中学時代は卓球部と野球部しかなく、卓球部に入部することになりました。幸司さんはセンスも技術も全県では指折り、確実に勝てるという安心感があります。でもここ一番に実力を発揮できないときがあるようです。そのため部内のリーグ戦では、実力で勝つていても兄の直樹さんだけに負けてしまうこともあるよう。「あとは強い精神力だけ」と村上先生もおっしゃいます。こんなところからも二人の性格を垣間見ることができました。

仲の良いお二人でしたが、最後に、お互いに送る言葉を。直樹「頑張るだけ頑張ってください(笑)」

私の本棚

『言葉の花束』



三浦 綾子 著
 講談社

孤独と虚無、自覚と生きがい、生命と苦難、結婚と家庭、愛の難しさと美しさ…。まじめな追求を続ける三浦綾子全作品のなかから選び抜かれた七七〇章。心悩むあなたへ贈る愛のメッセージ。

一般書

- ◇山は私の学校だった(今井通子) ◇さらば大学病院(米山公啓)
- ◇電脳文化と漢字のゆくえ(平凡社編) ◇才能を開花させる子供たち(エレン・ウイナー) ◇机上登山(西丸震哉) ◇「じゃりんこチエ」という生き方(長尾剛) ◇寂聴あおぞら説法(瀬戸内寂聴) ◇エキゾテイカ(中島らも) ◇今日ただ今の命(ポール・牧) ◇「It」と呼ばれた子(デイヴ・ベルザー) ◇フランクフルト回想録(V・E・フランク)
- ◇歴史のなかの東北(東北学院大学史学科編) ◇求愛(藤田宜永) ◇帰還(中園英助) ◇惜別の海上・下(澤田ふじ子) ◇仮面の国(柳美里)
- ◇雨を呼ぶ男(スージー・マローニー) ◇幽霊のような子(トリイ・ヘイデン) ◇絶海密室(大野芳) ◇不在者の祈り(タハール・ジェルーン)
- ◇風雅集(辻邦生) ◇氷の城(大泉康雄) ◇言葉のレッスン(柳美里)
- ◇姿子(常盤新平) ◇どつきどつかれ岸和田ケンカ青春記(中場利一)
- ◇恋する寄生虫(藤田紘一郎) ◇彼が泣いた夜(内田春菊) ◇三毛猫ホームズの暗闇(赤川次郎) ◇フェイス(山田邦子) ◇密約(佐藤雅美) ほか
- ◇ほしのこのひみつ(アルカディオ・ロバト) ◇はれときどきこぶた(矢玉四郎) ◇ゴム風船の実験(立花愛子) ◇ポットくんのおしり(真木文絵) ◇吉四六さん話名作集(野呂祐吉) ◇まだかかんがえるカエルくん(いわむらかずお) ◇おばけがっこうの大うんどう会(那須正幹) ◇妖怪たちはすぐそこに(小暮正夫) ほか

児童書

9月の中央図書館の休館日
 1日～12日(本の虫干しのため)、15日、20日、23日、24日